

<報道発表資料>

令和8年4月24日
京都市文化市民局美術館

京都市京セラ美術館 特別展「生誕 150 年 このしまおうこく 木島櫻谷」

この度、京都市京セラ美術館で、当館の自主企画展として、展覧会を開催します。

【展覧会基本情報】

- タイトル：特別展「生誕 150 年 木島櫻谷」
- 会 期：令和9年10月2日（土）～12月12日（日）
- 会 場：京都市京セラ美術館 本館 南回廊1階
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 124
- 開館時間：午前10時～午後6時
(入場は午後5時30分まで)
- 休 館 日：月曜日（祝日の場合は開館）
- 主 催：京都市、毎日新聞社、京都新聞、BSフジ、ライブエグザム
- 特別協力：公益財団法人櫻谷文庫

【展覧会概要】

本展は、近年再評価が進む木島櫻谷の画業を過去最大規模で紹介する回顧展です。

櫻谷は明治40（1907）年の第1回文部省美術展覧会（文展）で首席となって以降、6年連続で上位入賞するなど、京都画壇を代表する存在として広くその名を轟かせました。しかし、「文展の寵児」とも称された生前の華々しい活躍とは対照的に、没後は長らく顧みられる機会に恵まれず、次第にその名も忘れられていきました。

そうしたなか、2010年代に泉屋博古館で開催された複数の展覧会などを通して、動物画を中心に櫻谷に再び注目が集まり、再評価が急速に進みました。発表当時、夏目漱石が酷評した《寒月》（京都市美術館所蔵）も、「動物画の名手・櫻谷」を代表する作品として、今では多くのファンから愛されています。

生誕150年を記念して開催する本展は、こうした近年の動向を踏



まえながら、《寒月》をはじめとする優品を一堂に会するとともに、初出展作品や新出資料なども加えて、櫻谷の画業を見渡すものです。画の道を真っすぐに生きた櫻谷と私たちの新しい物語が、本展から始まることを期待します。

【木島櫻谷】

明治 10（1877）年、都の文化が息づく京都三条室町の商家に生まれる。本名は文治郎。京都画壇の重鎮であった今尾景年に画を学ぶ。

明治 40（1907）年に、日本初の国が主催する公募展として開催された第 1 回文部省美術展覧会（文展）に出品した《しぐれ》が最高賞に選ばれて以来、大正元年（1912）第 6 回の《寒月》まで、6 年連続で上位入賞する快挙を果たした。なかでも《寒月》は、櫻谷を推す今尾景年と安田靫彦を推す横山大観との間で審査上の対立があったと伝えられ、さらに夏目漱石が新聞紙上で酷評するなど、賛否両論を呼んだ問題作として知られている。

その後も文展や帝展の審査員を務めながら精力的に制作を続けたが、大正末頃より、衣笠の自邸での時間に重心を移し、絵画制作や読書、詩作といった詩書画三昧の文人的生活を送った。昭和 13 年（1937）11 月 3 日、62 歳でその生涯を閉じた。

京が育んだ美的な感覚、卓越した筆技、徹底した写生に基づく確かな描写、そして対象への共感にみちた眼差しとほのかな抒情を感じさせる洗練された画風が特徴。動物画が広く知られるが、山水や花木、歴史、人物を描いた作品にも多くの名品が残る。

< 広報用画像 >

広報画像のダウンロードは以下の URL から申請いただけます。

ARTPR : <https://www.artpr.jp/senoku-tokyo/okoku150>

< お問い合わせ先 >

京都市文化市民局美術館

電話：075-771-4334

< 報道機関からのお問合せ先 >

京都市京セラ美術館 広報

E-mail : pr@kyoto-museum.jp

電話：075-275-4271